

超人気FP!

— ABC ネットニュース —

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2020年1月10日

今月のトピックス 「2020年、株価は楽観で成熟する？」

新年、明けましておめでとうございます。今年も皆様に役立つ情報をマクロ・ミクロ、かつニュースの裏側等を交えてお届けできるように鋭意努力していきたいと思いを。

1年前、「株式市場はいばらの道が待つ？」と題して先取り経済NEWSをお届けしたわけだが、日本の株価は懐疑の中でスクスクと育ち20%を超える上昇で1年を終了した。「強気相場は、悲観の中に生まれ、懐疑で育ち、楽観の中で成熟し、幸福感の中で消えていく」という有名な格言を述べたのは、アメリカの著名投資家ジョン・テンブルトン氏の言葉である。2020年以降の株式市場は、この格言のように「楽観で成熟し、幸福感で消えていく」展開となる予感が強い。2020年のイベントは多数あるが、株式市場に最も影響を与えそうなのが米国の大統領選挙である。日本も解散総選挙が取りざたされている（昨年「衆参ダブル」を予測して空振りしました）が、インパクトは大統領選挙の比ではない。

その大統領選、トランプ大統領の再選の有無が株価に与える影響が大きいのは事実だが、世界的に景気が回復基調にあるのが楽観で成熟していく根拠の1つである。景気には大きな循環がいくつかあるが、最も短い循環が3～4年程度で起こる「在庫循環」に沿って景気が動いているからである。その在庫循環、3～4年で1サイクルであることから、前半約2年が拡張、後半約2年が後退となる。前回、ピークを付けたのが2018年1月前後なので、2019年後半～終盤に底を打ち足下は拡張局面に再び入っていると考えられる。在庫循環を基準に考えれば、次のピークは2020年終盤～2021年前半と考えられ、その後は後退していくことになる。株価は景気を取って動くのだから、2020年中にピークを付けることになると思われる。もちろん、一本調子で上昇するわけではなく、途中で調整を入れながらの上昇となるだろう。一大イベントである大統領選は、年明け2月から民主党の予備選挙が始まり、3月3日のスーパーチューズデーがハイライトになる見通しだが、その結果に一喜一憂して株価は乱高下となるだろう。だが、先に述べたように景気は拡張局面なのだから、乱高下の下落局面は良い押し目となる可能性が高い。再選を目指すトランプ大統領も2019年のような大きなちゃぶ台返しは控え、また株価が下落すれば強力な株価対策を行って来ると考えられる。表面上、株価を揺るがす材料は多数ある（年明け早々の中東問題も1つ）ものの、景気を考えれば株価は楽観で成熟する年になるのではないかと。大統領選は予想が難しいものの、民主党の左派が大統領になったとすれば株価のピークは前倒し＝株価急落の可能性は高まる点には注意したい。余談だが、日本でオリンピックが開催された過去3回、全て首相が交代した年であったことを記しておこう。